

備北・センター だより

BIHOKU-CENTER NEWS
No. 27

令和元年
7月1日発行

●発行所／三次市十日市東三丁目14-1 三次市福祉保健センター1F TEL.(0824)-63-1896
一般社団法人備北地域生活支援協会 備北障害者就業・生活支援センター 〈発行人〉森末博雄



今年の四月から谷口前センター長の後任としてまいりました森末です。
障害者の就業支援については、初めての仕事ということもあり、皆様に十分満足のいただく対応ができていない点多々あるうかと思えます。早く業務に慣れて、センターの発展に尽力したいと考えて



森末センター長

センター長 あいさつ

おりますので、どうぞよろしくお願ひします。

備北障害者就業・生活支援センターのモットーは「働くよろこびとともに」です。

働きたい障害者と障害者を受け入れたい企業との架け橋として、活動することがもつとも大きな仕事となっていますが、視点を変えれば、両者を結ぶ「仲人」のような仕事でもあると感じています。

障害者と企業との縁を結び、その縁が末永く続くよう、『縁の下』の力持ち』となつて、活動することを大切にしたいと考えています。

最近の求職状況を見ると、有効求人倍率は全国平均で一・六三倍と高い数値を示しており、全国的に人出不足の状況が続いています。

こうした売り手市場の環境の中で、障害者の雇用者数も増加傾向にあり、当センターでも今年の四月から五月までの2か月間で20人の方が就業され、その数は過去最多となっています。

障害者の雇用を促進するという当センターの業務にも追い風となり、責任者としても非常に喜ばしい状況であると感じています。

但し、縁を結べばそれで終わりではありません。就業された皆さんが、喜んで仕事を続けられるよう、就業後の支援が非常に大切であると考えています。

職場での人間関係や合理的配慮への理解、仕事での悩みや生活上の課題など、仕事を続けていくための色々な相談に応じていくことが仕事の定着に繋がっていくと思います。

障害者や障害者を雇用される企業にとつて、信頼されるセンターであるよう、これからも色々な相談に対応してまいりますので、よろしくお願ひします。

ホームページにも
情報を掲載しています。
ぜひご覧ください。



備北障害者就業・
生活支援センター

<http://care-net.biz/34/bihoku-c>

職場拝見



今回は庄原市東城町にある『ヤマモトロックマシンの会社』を訪ね、山本社長と社員の小谷さんに話を聞きました。



山本社長

ヤマモトロックマシンの会社概要についてお聞かせください。

戦前に私の祖父が鉄工所として創業し、鉄を溶かして成形する鋳物加工を行い、様々な鉄製品を作っております。

その後、ダム工事、発電所建設工事が始まり、その中で多くの外国製さく岩機が使用されました。その修理や部品の補給を引き受けたことからさく岩機の製造に着手し、量産体制を整えました。そして現在では約120名が2つの工場と6つの営業所に勤務しています。

障害者雇用をするきっかけは何でしたか？

広島県中小企業家同友会福山支部に所属しています。そこでは障害者雇用を積極的にしている企業があります。企業の社会的責任として地域社会に貢献する必要があると感じて自分たちでできることからはじめようと考えたことが障害者雇用のきっかけです。

工場には様々な仕事があるので、雇用できると考えました。

雇用する前にどのような準備をされましたか？

あいサポートから講師を招いて障害を持つている人の理解を深めるためにレクチャーをしてもらいました。必要であれば時短勤務も考えていました。



事務所

今回の雇用で何か配慮されていることはありますか？

特別扱いはいらないけれども「合理的配慮」は必要だと考えています。

最初は複雑な作業はしない。先ずは単純な作業を繰り返して仕事に慣れてもらうことから始めました。「出来ること」「出来ないこと」を見極めながら仕事の幅を広げていくつもりです。また、障害者手帳を持っている従業員で月に1度の通院が必要な場合は有給とは別に「通院のための休暇」を取れるように就業規則の変更をしました。

ナカポツセンターのこれからの関わりについて一言。

障害者を積極的に雇用している企業の話を聞く機会があれば良いと思います。実際に雇用して成功している企業の話は説得力があると思います。



小谷さんは入社して2ヶ月が経過しました。入社された経緯をお聞かせください。



社員の小谷さん

庄原特別支援学校の実習でヤマモトロックマシンの仕事を体験しました。仕事の内容が自分に向いていると感じて入社しました。また、家から近い(徒歩20分)ことも入社を希望する大きな要因でした。

仕事の内容を教えてください。

主にサンドブラストという機械を使い、製品に付いた汚れを落とす作業をしています。

仕事をするうえで気を付けていることはありますか？

事故やケガが無いように、入念に安全確認をして仕事をしています。これは入社した時に上司や先輩からアドバイスをいただきました。

働き始めて良かった点は
何ですか？

月に一度の給与が楽しみです。
一部を親に預けて、自分の欲しい
ものを買うのが楽しみです。

これからの目標はありますか？

先ずは今やっている仕事を正確
にやり続けることが大切だと思っ
ています。

休日や余暇にやっておられるこ
とはありますか？

休みの日は家でゆっくりと過ご
すことが多いです。好きな漫画を
読んでリラックしています。



工場

団体紹介

庄原青年会議所

今回は、障害者の就業に取り組
んでおられる「庄原青年会議所
心に灯(ともしび)委員会」の三浦委
員長にお話を伺いました。三浦さ
んは庄原市内で弁護士としても活
躍しておられます。

Q まず、庄原青年会議所につい
て教えてください。

A 結成されて今年で55年になり
ます。庄原市内の青年経済人
で組織され、現在21名の会員がい
ます。

Q 会員の入会資格はありますか。

A 20歳以上40歳未満の方で、企業
にお勤めの方や経営者などが
会員になっています。

Q 活動内容は
どのようなものですか。

A 庄原市の発展に貢献し、まち
づくりを進めることを目指し

ています。今年の基本方針は次の
4つです。

1. 縁に温もりを
2. 心に灯を
3. まちに豊かさを
4. 人に輝きを

このうち、「心に灯を」という方
針の中で、障害者の問題にも取り
組むこととしています。

Q 障害者の雇用に取り組むこと
となったきっかけは何ですか。

A 昨年度の活動の中で、障害者
との交流会を企画・実施しま
したが、これまで青年会議所とし
て障害者とふれあう機会がなかつ
たことと障害者雇用に対する取り
組みが不十分であることを痛感し
ました。それで今年度、障害者の就
労に視点を当てた取り組みをする
こととしました。

Q 具体的にどのような取り組み
を計画されていますか。

A ひとつは7月17日に庄原市ふ
れあいセンターで開催する就
業セミナーの中で「障害者就労に
関するパネルディスカッション」
を開催します。パネリストには、広
島県中小企業家同友会の障害者問

題委員長の大植さんのほか、市内
で障害者を雇用されている企業と
そこで働いている当事者も出席し
ていただくこととしています。
(詳細は4ページに掲載)

Q そのほかの取り組みもありま
すか。

A まだ、詳細は決まっていませ
んが、10月に市内の各事業者
と障害者の交流会を開催するよう
計画しています。

お忙しいところ、時間を取って
いただきありがとうございます。
これから障害者の雇用問題
に関心をもち、取り組みを継続し
ていただくことを願います。



三浦益隆さん

お知らせ

障害者就労セミナー ～みんなで働く・みんなで笑う～

- と き / 7月17日(水) 13時00分～14時30分 ●入場無料
- と ころ / 庄原市ふれあいセンター(庄原市西本町4-5-26)
- パネルディスカッション / パネリスト 大植 栄 氏(広島県中小企業家同友会 障害者問題委員長)
源田敏彦 氏(広島県中小企業家同友会 事務局長)
山田良和 氏(株式会社緑の村 総務部マネージャー)
大田 慎 氏(道の駅たかの 社員)
澤井由紀 氏(備北障害者就業・生活支援センター 自立支援員)
- 主 催 / 庄原青年会議所 ●共 催 / 備北障害者就業・生活支援センター



備北圏域障害者就労・職場定着支援推進会議 企業見学会参加者募集

- 日 時 / 7月25日(木) ●場 所 / 岡山県井原市 「青山商事井原商品センター」
- 参加対象者 / 三次・庄原の事業者及び支援者 (20名)
- 内 容 / 従業員110名中、障害者手帳所持者53名でその数は年々増加しています。
また、中途退職者もほとんどなく、ミスをなくすための様々な工夫や特性に応じた
班分けなど作業の効率化にも努めておられます。
- 申 込 / 7月19日までにセンターへ申し込んでください。

発達障害専門家会議inびほく

発達障害児・者のライフステージにおける切れ目のない支援のあり方を提案し、その多様性を認め合い、共に生きる社会づくりに貢献することを目的として、今年の2月に発足しました。
この会議の発足を記念して、次のとおりシンポジウムが開催されます。発達障害について関心をお持ちの方はぜひご参加ください。
この会議の主催により「第1回発達障害シンポジウムinびほく」が次のとおり開催されます。

- と き / 8月11日(日) 13時～16時(開場12時)
- と ころ / 三次市福祉保健センター4階ふれあいホール(三次市十日市東3-14-1)
- 内 容 / 基調講演 「福祉は地域づくり・社会づくり」
社会福祉法人ひとは福祉会
理事長 寺尾 文尚氏
シンポジウム 「発達障害児・者がこの地域で暮らすために」
シンポジスト 山下美佐子氏(つどい・さんあい)
淀川良夫氏(子鹿医療療育センター長)
正重千沙子氏(三次市こども発達支援センター指導員)
谷口光治氏(元備北障害者就業・生活支援センター長)
コーディネーター 水越ひろ子氏(キッズさぼーとyui所長)
- 参 加 費 / 一人500円 ※事前の申し込みは不要です。



編集後記

今回から編集者が変わるとなり、悪戦苦闘の末の初版(私にとつて...)となりました。

ご協力いただいたヤマモトロックマシンの皆様、庄原青年会議所の関係者の皆様、本当にありがとうございました。
これからも年三回の発行を予定しておりますので、よろしくお願ひします。

(森末)

センター活動実績 <令和元年6月20日現在>

- 就職者数 311件 (22年4月から累計)
- 企業実習 205件 (22年4月から累計)

職種

就職先: 食品製造、製造業、福祉施設、林業病院、日用品販売量販店、農業、建設業etc